

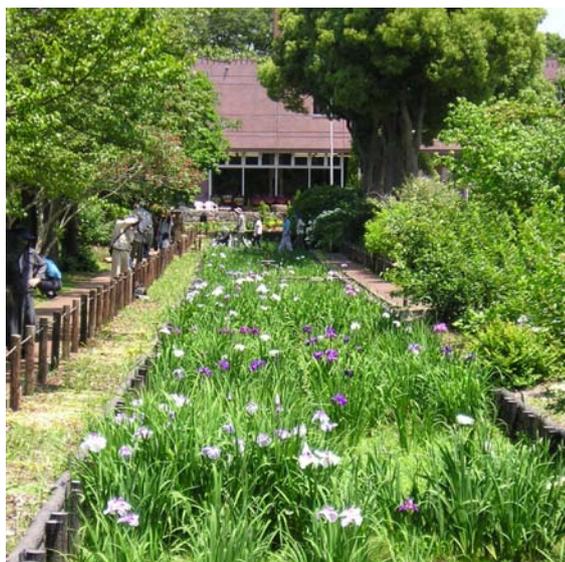
大船系花菖蒲の品種保存について

神奈川県立フラワーセンター大船植物園植栽課

賤機高康

大船系花菖蒲につきましては、会報²⁹号において椎野昌宏理事長より「宮沢交配種と大船フラワーセンター」と題して既に御紹介を頂いております。明治42年に神奈川県農事試験場（現在のフラワーセンター大船植物園）において、宮沢文吾博士が輸出を目的とした江戸系品種の収集と優良品種の育成に着手され、大正時代を中心に新品種の育成が行われました。そして昭和11年には、これらの品種改良成績書と300の新品種が発表されています。しかしながら、その後の戦災

においてその多くが失われ、昭和26年には100余種のみが残っていたと記録されています。さらに農事試験場の移転に伴い、昭和34年に一旦平塚市に移されたのち、植物園の開園に伴い昭和36年に再び大船に戻されました。翌年の昭和37年の開園以来、宮沢先生が育成されたこれらの品種を大船系花菖蒲として現在の菖蒲田にて植栽展示を行っています。江戸系品種から育成されたもので群生美に優れ、また江戸系品種の中でも穏やかで優しい花容のものが多くと思われま



園と共に大船系花菖蒲の植栽展示も47年の歴史を刻んできましたが、残念ながら連作の影響などにより、残存する品種数は徐々に減少し、現在68品種のみを保存しております。私は平成15年から当園の花菖蒲の管理を担当しており、ここ数年の当園の花菖蒲の状況についてお話しさせて頂きますと、花菖蒲園全体の草勢が弱くなり、枯死株や生育不良株が多く見られる状態が続いています。その原因については様々なことがあ

ると思われますが、かん水に用いている井戸水のpHが8以上と高く、水が直接かかりやすい部分では葉が黄化

し株全体も伸びやかに生育しないことから、pHが高いことによる土壌養分の吸収阻害があるのではないかと考えました。開花時の風情などを考えると菖蒲田に水を入れたいところですが、そうしたことから最近では井戸水の施用は控え、天水の他は夏の乾燥時や植替え直後の苗などに水道水をスプリンクラーで散水しています。また併せて平成16年に行った土壌分析の結果、土壌中の加里が多いことがわかりました。そこで平成17年からは窒素分として「硫酸」、磷酸分として「過磷酸石灰」というように単肥施用を中心に行うようにしました。窒素、磷酸、加里のバランスを取ると同時に、「硫酸」、「過磷酸石灰」は土壌pHを下げる効果もあります。施用後は葉の黄化は少なくなり、株の伸長も良くなりました。そして昨年の夏は、この数年では最も良い作柄となりました。本年8月16日に地下水と土壌について詳細な分析を行いました（別表参照）、以前7.5ほどであった土壌pHは改善されたように思われます。また以前は50mg/100gほどであった加里も少なくなっており、今後は十分な施用が必要と考えられます。また井戸水は依然としてpHが高く、海水の約0.5%にあたる

NaClが含まれていました。このNaCl濃度はそれほど大きな影響は無いと考えられますが、pH値も高いことから念のため井戸水の施用は当分見合わせようと考えています。

そして昨年の生育が良く一安心していたのも束の間、今年の春になり江戸系品種、大船系品種で新芽の発生が見られな

花菖蒲田の土壌分析結果

地点NO	品種	pH	EC(mS/cm)	2009.8.16				
				mg/100g				
				P2O5	CaO	MgO	K2O	Na2O
1	瀨の光	6.11	0.14	46.1	478	46.9	65.8	3.5
2	猿躰	6.01	0.11	39.4	519	49.3	18.9	7.7
3	春の名残	6.21	0.12	27.9	495	46.3	21.1	6.2
4	春の海	6.48	0.06	27.8	538	48.9	19.9	11.8
5	賤が家居	6.16	0.27	49.7	683	102.6	24.4	15.3
6	荒磯	6.14	0.19	41.3	669	73.8	20.3	10.8
7	玉花	5.81	0.24	44.8	452	73.6	14.3	9.7
8	揚羽	5.84	0.22	30.4	404	56.7	27.4	5.2
9	太平洋	5.80	0.24	36.0	405	69.9	26.5	7.2
10	五大州	6.64	0.20	35.1	554	118.9	13.0	42.3
11	舞子の浜	6.73	0.32	30.4	525	106.5	17.5	72.6

井戸水の分析結果										
										2009.8.16
pH	EC(mS/cm)	mg/L								
		Cl	NO3	SO4	PO4	Na	NH4	K	Mg	Ca
8.22	0.82	77.1	8.5	17.6	0.0	202.7	0.0	5.2	1.2	3.1

いものが数多く見られました。クスノキなどの樹木による日照不足、pHの高い池の水の流入など様々な要因がありそうですが明らかではありません。依然として大船系品種の保存の点から不安な状況ですが、改植による草勢の回復、施肥の適正化など作柄の安定に努めたいと考えております。

そして、このような状況の中で貴重な大船系花菖蒲の品種保存について早急に新たな対応が必要であると考えていました。

そこで平成16年に椎野理事長に相談を申し上げ、当協会を通じ玉川大学農学部生物資源学科 田淵義人先生のもと、大船系花菖蒲の品種保存をしていただくことを快くお引き受けいただきました。

それから本年までの5年にわたり約50品種もの保存を行っていただいております。また玉川大学では、品種保存と併せて大船育成品種についての外部形態に関する特性評価(2004)を日本園芸学会にて発表されるなど、研究テーマとしても取り

上げて頂いております。このように日本花菖蒲協会、玉川大学には大船系花菖蒲の品種保存につきまして多大なる御力添えを頂いており、改めまして御礼申し上げます。

平成二十一年度花菖蒲展示会

展示会実行委員会

今後とも皆様方の御協力を頂きながら大船系花菖蒲の保存を図るとともに、当園の花菖蒲園において良い植栽展示ができるよう栽培管理に努めていきたいと思っております。



六月九日(火)から十四日(日)まで六日間鎌倉市の大船フラワーセンターで開催されました。梅雨時にも拘わらず比較的天気が保たれ、展示会の知名度アップと、NHK趣味の園芸誌に載せられた展示会案内の効果も出て、例年を越す来観者がありました。首都圏在住会員一五名から12ミリポット約五〇〇鉢(販売用を含む)、盆養八鉢、大株二〇鉢が集まりました。

当日の最優秀作が金屏風の前に並びますが、初日の九日に昇ったのは、宇宙、雪化粧、扇田、満月の宴、紅宇宙、槍ヶ岳、神路の誉の七点でした。

盆養は既に咲いてしまったものがあり、ベストの姿は見せられませんでした。

ノハナショウブのコーナーには16ポットと四つの大鉢が展示され、

いずれも花は盛りの段階で、変り花もあり、賑やかでした。以下関係者名を列記します(敬称略)。ご苦勞様でした。

(花菖蒲出展者) 石井湜、稲垣敏明、小串正美、金子キミエ、金子嘉昭、上条正美、小林昇、小山章治、佐々木雅純、椎野昌宏、清水弘、武内暢宏、田辺孝、戸塚由美子、並木健至、福住康文、松下卓生

(その他の展示) 俳句色紙 星野文子、村中紫香ほか、絵手紙 ころつき 戸塚支店友の会絵手紙教室、美友会 箕島美智子ほか、田中多賀子、鳴滝みどり 写真 横浜フोटoclub

97 (当番参加者) 前記出展者以外に、飯島瑛雄、河西孝美、金子紀久子、小串春子

